

令和 5 年度 園評価書

園番号 16

園名 小黒こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かでたくましい子ども	自分で「おもしろいこと」をみつけてつなげよう	子ども達が、自分から好きな遊びやおもしろいことを見付け、「もっとやりたい」「明日も遊ぼう」という気持ちをつなげている	○様々な可動遊具やその他の遊具を取り出しやすいように1ヶ所に準備するように変えた。子どもたちが自分たちで必要な物を選び遊び始めたり、「明日もやりたい」と次の日の遊びにつなげたりして遊びが充実してきている ●保育者の思いから環境を準備しすぎたり、また、子どもの思いを見過して必要な物を片付けてしまうことがある	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちから色々な意見や考えが出てきて、少数意見を尊重しようとするのが良い。みんなの意見を聞いて受け入れようとしたり、主張したりする相互理解の精神だと思う。お互いに理解し合うことが大切である 今年度は特に、みんなで一つの活動を通して工夫して作っている子どもたちの姿があった。横のつながりもあって良い 人数が少ないため、玩具も少なめに感じる。室内遊びの充実をしてほしい 先生たちの語彙の少なさは、若い人の特徴のように感じる。気持ちを表現できていないので、一つの文や単語を短く優しい日本語を使い子どもに伝えると良い 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども理解を深めるために、保育教諭が子どもと一緒に遊び、子どもの興味を見極め、環境の用意や保育教諭の関わり方を考えていく 保育教諭が子どものしぐさや表情から汲み取り声を掛けてしまうことがあるので、子どもから話したい雰囲気を作っていく 保育教諭がその子に合った返答力ができるように、子どもが言っていることを理解し受け止め引き出したい部分を伝えられるようにする 保育教諭自身自ら様々な本を読み、心が動く実体験を通して、語彙力を高めていく 保育教諭は、子どもたちで解決する様子を見守り、提案しながら子どもたち自身が納得し決めていくことを大事にしていく
		子ども達が自分のイメージを言葉やしぐさで友達に伝えている	○自分のやりたいことや思いを伝え、トラブルや言い合いになることもあるが、伝えることで友達と一緒に遊びを楽しんでいる ○遊びや活動を通して、保育者が子どもの話を聞こうとしていることで、子どもたち同士で意見を伝え合い、遊びを進めていく姿が見られるようになってきた ●自分から友達に伝えようとせず保育者を頼ろうとしたり、語彙の少なさからうまく思いを伝えられない子もいる	B	B		
		自分や友達の良さに気づき、関わり合いながら遊んでいる	○保育者が子どもの良さを褒め、職員や子どもと共有していくことで、友達の良さに気付く真似をしたり言葉で良さを伝えたりして、友達と関わる姿も増えてきた。乳児から認められる経験の積み重ねや1つのことにみんなで取り組む活動、ルールのある遊びを通して友達関係が広がってきている ●相手の気持ちに気づかず、自分の主張が強い子もいる	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人に合った環境構成や援助を週案会議で共有し、他学年や乳幼児のつながりのある教育・保育を実施している	○週案会議で今の子ども様子を伝え合い、環境構成やその子に合った援助を共有し、遊びの広がりやつながりのある保育をしている ○他のクラスと園庭に出る時間や玩具の置き場の工夫をすることで、年齢や活動に合った遊びを子どもたちに提供することができた ●乳児と幼児の職員や子ども同士も、つながりが足りなかった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 他園から玩具(大型積み木、ソフトブロック、巧技台など)を借りてきて、上手に使って遊んでいる。先生たちが頑張っていることがわかる 大人には考えられない子どもの視点がある。最初から大人が教えないで、子どもたちが自分たちで工夫していくことが良いと思う。どうしても大人は先に手や口が出てしまう気がする。先生たちが、子どもたちはどうやって遊ぶのか見ているところが良い 避難訓練は定期的に経験していることが大事だと思う コロナの影響はプラスとマイナスの両方の経験をしたが、ポジティブに捉えて良い方向に変えてやっていってほしい 園だよりの裏のレシピを子どもが楽しみにしている。家庭でも子どもと一緒にレシピを見ながら作り、食育につながっている。自分たちで野菜を育てると楽しいということを小さい時に経験できることが大切だと思う 園長先生の特徴があり、いろいろな園長に関わってもらえることが公立こども園の良さだと思う 今までなかなか小学校とつながりたいが難しいと言っていたが、今年は前進して交流していることが嬉しい。校長先生にも話をしたら「やっているよ」と答えていて、つながっていると感じた 子どもが「今日小学校へ行くんだ」と目をキラキラして期待しながら、話している姿がある。小学校は子どもにとって憧れの場所であり、これから就学する学校のイメージをもちやすいため、何度も交流してくれることはありがたい 連絡ノートよりも直接顔を合わせて話すことが大事。人と人、普段の信頼関係を大事にしてほしい。自分の子のクラスの先生だけでなく他の先生も知ってくれていることが、保護者にとって安心感につながり、うれしいことである。アットホームでこじんまりしている所が良い いきいき教室に来てくれて、高齢者の方もとても喜んで楽しみにしている。普段の表情と全く違う表情を見せているので交流は地域の高齢者にとっても大切だと思う。これからも地域との関係を大事に続けていってほしい 今年は特に暑すぎたので、散歩や自然物を取り入れることは難しかったと思う 	
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活やリズムに合わせ、安心して過ごせるようにしている	○一人一人の家庭の生活リズムや多国籍の生活習慣などを意識して保育している。特に乳児はミルクや午前睡などの個々の生活リズムが違う中で、体調や機嫌などを保護者の方から聞き、子どもたちが安心して過ごせるようにしている ●個々の生活リズムと集団生活の兼ね合いが難しいと感じる	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達が自分から遊び出せるような環境構成の工夫をしている	○より子どもたちから「遊びたい」「やりたい」の姿になるため、室内や園庭共に遊びを自分で選べるように様々な素材や道具の準備や出し方の工夫をしている ○保育者自身が子どもたちに見本を見せ、やってみようとするきっかけ作りを行った ●子どもの遊びの見取りが難しく、環境の準備が不十分だったり保育教諭の関わるタイミングが難しかったりする	A	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	子どもが時間や場所に応じた避難がわかるように指導している	○避難訓練や不審者訓練後、子どもたちと一緒に振り返りを積み重ねていくことで、子どもたちも保育者の指示を聞いたり、自分たちで考えて避難できるようになってきている ●保育者同士の動きや連携の確認が必要で、臨機応変に動けないこともあった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が乳児の世話をしたり関わったりできるようにする。年上の子の遊びに興味をもった子に対して、発達に合った環境構成を遊びが楽しめるようにする。そのために週案会議を大切に、職員同士の話し合いを密にしておく 避難時のフローチャートを各クラスに貼り出したり職員がヒヤリハットを意識して記入したりできるように分掌で考えていく 	
	(1)健康教育の充実	子どもが意欲をもって食に関わる経験をしたり、食べることを楽しんだりするようにしている	○夏野菜や冬野菜を栽培し、収穫した野菜を給食室と協力してクッキングし食べるという食に対しての活動を意欲的に取り組んだ。乳児も野菜の生長を見ることができ、興味をもっていた ○毎月の食育の会では、旬の食材や行事食について知らせ、給食を楽しみにすることができた ●調理員を巻き込みながら食に関わる経験(クッキングや食育の会など)が少なかった	A	A		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが意欲をもって食に関わる経験をしたり、食べることを楽しんだりするようにしている	○調理員を巻き込みながら食に関わる経験(クッキングや食育の会など)が少なかった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> クッキングや食育の会に、できる範囲で給食室との連携をしながら進めていく 日々食を意識した声掛けや野菜の栽培、給食のサンプルなど身近な取り組みを継続していく 	
	(1)支援体制づくりの推進	全職員で個々の発達を理解して共有し一人一人に合った関わりをしたり、必要に応じて専門機関と連携を図ったりしている	○担当者会議やケース会議のアドバイスにより、関わり方や対応のバリエーションが増えた。また、会議の報告を受けて一人一人の支援方法や関わり方について知り、同じように対応することができるようになった ○言語教室や療育の先生とも連携し、自分たちの教育保育にも取り入れている ●療育を必要とする子や制度について改めて学びが必要だと考える	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)組織体制の充実	担当園務分掌を各自意識し、企画、提案、計画に基づいた遂行、協力して教育・保育を進めている	○定期的に会議の時間を設けたことで、より自分の分掌を意識し進めている。また、担当ではない職員からもアドバイスをもらい協力しながら行っている ●見通しをもって行事を進めていこうとできなかった。また、分掌で話し合った内容を全体で共有することが難しい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議やケース会議を今後も継続して職員間で共通理解していく 保育教諭が療育の見学や研修の時間を作り勉強して療育の活動とすり合わせをしたりしていく 分掌の担当を複数でもち、話し合いを進めていく 各分掌で話し合いをもつ時間を決め見通しをもって企画進行ができるようにしていく 	
	(1)研修体制の充実	公開保育や教材研究を通して、研修テーマに沿った研修を行っている	○年間計画をもとに各クラス1回ずつ公開保育を実施し、研修テーマその都度確認してテーマに沿った研修を行うことができた ○研修部を中心に実践的な教材研究や理論的な10の姿から各年齢の発達を押しえた姿を学び合っている	A	A		
5 組織運営	(1)教育・保育環境の充実	季節や発達に応じた遊びがさらにおもしろくなるよう教材や環境を整えている	○各クラスで季節や発達に合わせた制作や環境を考えて整えていくことができた。秋にはどんぐりやまつぼっくりを種類で分けたり、園庭の落ち葉を利用したりと、遊びや制作に活かすことができた ●タイミングが遅くなり、その季節が過ぎてしまうこともあった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修や自主研修の学び合う内容を細かく計画し、取り組んでいく 園全体の保育力向上のために、会計年度任用職員も参加できる園内研修の機会を工夫していく 年度初めに時期を見据えた教材研修の内容を検討し年間計画を立てていく 保育教諭一人一人が感性を豊かにもち、自然やその変化にアンテナを高くもつ 遊びの経過やつながりが分かるポートフォリオを継続して作成していく ポートフォリオの担当を見通しがもてるように事前に割り振っておく 	
	(1)家庭教育への支援機能の充実	子ども達の遊びや生活の様子、園の取り組み等を保護者にわかりやすく伝え、子どもの育ちを共有している	○遊びの流れを意識したポートフォリオを作成し、遊びの経過や行事の広がりや伝え、写真が白黒だが、サイズを大きくしたことでわかりやすく伝えることができた ○毎日の様子は、送迎時の口頭や連絡ノート、ボードで、子どもの遊びや生活の様子をわかりやすく伝えている	A	A		
6 研 修	(1)近隣の園との連携の推進	自分達から積極的に近隣の小学校や園との交流を図っている	○西豊田小学校とは、運動会や1年生の授業を見せてもらい交流することができた。トイレを借りたり運動場で遊ばせてもらうことで、年長児は就学の楽しみにつながっている。また、視覚特別支援学校との交流では、職員からアドバイスをもらったり、子どもたちと一緒に考えたりして、お互いの子どもたちが楽しめる活動を企画することができた ○公立こども園や研修で知り合った私立園を公開保育に招く、参観に行くなどの交流をし、共に学び合った	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、西豊田小学校との交流を今までより進められたので、来年度は合同避難訓練や交流などを小学校と計画し、連携しながら進めていく 近隣の公私立こども園保育園との交流を継続し新たに近隣の私立幼稚園とも交流を図りたい 	
	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)近隣の園との連携の推進	自分達から積極的に近隣の小学校や園との交流を図っている	○西豊田小学校とは、運動会や1年生の授業を見せてもらい交流することができた。トイレを借りたり運動場で遊ばせてもらうことで、年長児は就学の楽しみにつながっている。また、視覚特別支援学校との交流では、職員からアドバイスをもらったり、子どもたちと一緒に考えたりして、お互いの子どもたちが楽しめる活動を企画することができた ○公立こども園や研修で知り合った私立園を公開保育に招く、参観に行くなどの交流をし、共に学び合った	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、西豊田小学校との交流を今までより進められたので、来年度は合同避難訓練や交流などを小学校と計画し、連携しながら進めていく 近隣の公私立こども園保育園との交流を継続し新たに近隣の私立幼稚園とも交流を図りたい 	
	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A		
8 家庭との連携・協力	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> いきいき教室で地域の方と交流し始めたので、来年度は春から計画を立て実施していく 小黒地区にある気象台には様々な樹木があるので、季節を感じられるよう1年を通して活用していきたい 	
	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	自分達から積極的に近隣の小学校や園との交流を図っている	○西豊田小学校とは、運動会や1年生の授業を見せてもらい交流することができた。トイレを借りたり運動場で遊ばせてもらうことで、年長児は就学の楽しみにつながっている。また、視覚特別支援学校との交流では、職員からアドバイスをもらったり、子どもたちと一緒に考えたりして、お互いの子どもたちが楽しめる活動を企画することができた ○公立こども園や研修で知り合った私立園を公開保育に招く、参観に行くなどの交流をし、共に学び合った	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、西豊田小学校との交流を今までより進められたので、来年度は合同避難訓練や交流などを小学校と計画し、連携しながら進めていく 近隣の公私立こども園保育園との交流を継続し新たに近隣の私立幼稚園とも交流を図りたい 	
	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> いきいき教室で地域の方と交流し始めたので、来年度は春から計画を立て実施していく 小黒地区にある気象台には様々な樹木があるので、季節を感じられるよう1年を通して活用していきたい 	
	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○積極的に地域の方に声を掛け、小黒神社の輪くぐりの仕方を教えてもらったり、地蔵祭りやいきいき教室など以前より幅広い交流をすることができた。特にいきいき教室では、高齢者の方々が笑顔で子どもたちの歌や踊りを見ていただくことで、子どもたちもとても喜んでいいる ○散歩に出かけた際には、近隣の方に積極的に挨拶をするようにした ●今年は秋になっても気温が高い日が続き、散歩になかなか行けなかった	A	A		